

## 「ひむか共創人財育成塾・教師みらいコース」を開講

令和4年7月16日（土）、教育学部は、今年で7年目を迎えた「ひむか共創人財育成塾・教師みらいコース」を開講した。

昨年度までの「ひむか人財育成セミナー」を、今年度から「ひむか共創人財育成塾」と改め、SDGsの視点から宮崎が直面している社会課題を他校生と一緒に考えるセミナーとして、「教師みらいコース」と「ふるさと宮崎創成コース」に分かれて開催する。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策として、会場校参加に加え、県内各校からのオンライン参加や自宅等における zoom 参加、YouTube 視聴といったハイブリッド型で開催していく。

「教師みらいコース」初回のこの日は、宮崎南高等学校をメイン会場として、県内各校からのオンライン参加や自宅等から zoom 参加も含め、約70人が講師の話に熱心に耳を傾けた。それ以外の生徒たちは、後日「ひむか共創人財育成塾のサイト」にアップされる YouTube を視聴して学びを深める予定である。

開講式では、教育学部の藤井良宜学部長と、宮崎南高等学校の富高校長から挨拶があり、本セミナーを通して教師を目指すきっかけにしてほしいといった高校生への期待が述べられた。

第1回目のテーマは「ICTで創る未来の学校」。進行は、こゆ地域づくり推進機構の教育イノベーション推進専門官である中山隆氏が務め、講師に小学校、中学校、高等学校の先生3名を迎え、それぞれの立場からICTによって教育現場がどう変わってきたのか、ICTで何ができるようになったのかについて講話をしていただいた。

※講師：延岡市立土々呂小学校の黒木俊介教諭、西都市立穂北中学校の伊東泰彦校長、宮崎大宮高等学校の猪股秀一教諭

講話の後の共創タイムでは、参加した高校生が他校生と3名1グループになって「10年後の未来の学校はどうなっているか」について考えるワークショップを実施した。オンラインでつながった他校生とのやりとりに、最初は戸惑う様子も見受けられたが、次第に慣れ、活発に意見を交わすことができていた。

ひむか共創人財育成塾（2コース）は、県内23校の高校生1,033名が登録しており、11月までに各コース4回ずつ、計8回実施される予定である。



挨拶をする藤井学部長（左）と富高校長（右）



進行を務める中山隆氏（左写真）と猪股教諭、伊東校長、黒木教諭（右写真、左から）



他校生とワークショップを行う様子